

2024（令和6）年度後期
教学改善のための授業評価アンケート
報告書

大阪成蹊大学

調査概要

授業評価アンケート結果

集計データ

調査票

調査概要

1) 調査目的

個々の授業に対して学生の率直な意見を聴取・理解し、学生にとって分かり易く、学習成果の得易い教育活動が行えるよう、授業の充実・改善、授業法の開発に資することを目的とする。

2) 調査項目

<一般科目>

- ・回答者の基本属性（学籍番号、所属学部、学年、性別、学生区分）
- ・「授業への学生の取り組み」に関する項目（5問）
- ・「授業内容と授業の進め方」に関する項目（15問）
- ・「教育環境」に関する項目（2問）
- ・「授業を通して得られたこと」に関する項目（8問）
- ・自由記述項目（1問）

<ピアノ科目>

- ・回答者の基本属性（学籍番号、所属学部）
- ・「授業への学生の取り組み」に関する項目（5問）
- ・「授業内容と授業の進め方」に関する項目（10問）
- ・「授業を通して得られたこと」に関する項目（8問）
- ・自由記述項目（1問）

3) 調査対象

本学の2024（R6）年度後期開講の全授業（※ピアノ科目以外の10名未満のクラス、及び、13週目までに終了するクラスについては、担当教員の任意で実施）、及びこれらの授業を履修している全学生

4) 調査方法

質問紙（マークシート）とWEBアンケートシステムを併用して調査を実施した。

質問紙を用いた実施手順は、下記の通り。

- ①各授業の終了前15分程度を使用する。
- ②質問紙の配付・回収は、教員と、教員が指名した学生2名が協力して行う。
- ③回答時間は、授業時間終了2分前までを目安とする。
- ④質問紙の配付後は、教員は教室内で待機し、質問紙の回収を確認する。
- ⑤指名学生は質問紙を回収後、回収用封筒に封入・封緘し、教務課に提出する。

5) 調査期間

2024（R6）年12月20日（金）～2024（R7）年1月20日（月）（※原則、授業の13週目に実施）

6) 調査主体

大阪成蹊大学

7) 調査実施率と有効回答率

◆科目ベース

		対象科目数	実施科目数	調査実施率
配当 所属	経営学部	141科目	141科目	100.0%
	芸術学部	139科目	139科目	100.0%
	教育学部	207科目	207科目	100.0%
	国際観光学部	35科目	35科目	100.0%
	データサイエンス学部	16科目	16科目	100.0%
	看護学部	26科目	26科目	100.0%
	大学共通	280科目	280科目	100.0%
	教職課程	7科目	7科目	100.0%
	博物館学芸員	4科目	4科目	100.0%
調査 方法	対面調査	773科目	773科目	100.0%
	遠隔調査	82科目	82科目	100.0%
2024(R6)後期 計		855科目	855科目	100.0%

◆学生ベース

		延べ履修者数	延べ有効回答者数	有効回答率
所属 学部	経営学部	10,524名	7,702名	73.2%
	芸術学部	8,059名	6,782名	84.2%
	教育学部	9,289名	7,481名	80.5%
	国際観光学部	2,234名	1,577名	70.6%
	データサイエンス学部	1,226名	879名	71.7%
	看護学部	2,220名	1,831名	82.5%
	(所属学部不明、その他、端数調整)	408名	467名	
調査 方法	対面調査	25,298名	20,363名	80.5%
	遠隔調査	8,662名	6,356名	73.4%
2024(R6)後期 計		33,960名	26,719名	78.7%

※「延べ履修者数」は、学生1名が複数の調査対象科目に履修登録している場合、履修科目ごとに1名としてカウントした。

※「延べ有効回答者数」は、学生1名が調査期間中に複数の調査対象科目に出席し、且つ、アンケート用紙に回答した場合、回答した科目ごとに1名としてカウントした。ただし、アンケート用紙に1問も回答がない(回答者の基本属性を含む。自由記述は除く)ケースについては、無効回答として集計対象から除外した。

8) 調査結果の活用

アンケート結果はプロジェクトチームによって分析され、教学改革会議において報告された。また、授業ごとのアンケート結果は担当の教員に戻され、各教員はその結果を受けて授業実施報告書を作成した。

本学では、教学改革会議のプロジェクトチームが中心となり、各学部・学科、FD委員会、教務係などと連携しながら、授業評価アンケートの結果を授業改善へとつなげていく。

授業評価アンケート結果（一般科目）

◆経年比較

※30問中「1」または「5」の解答が29以上のケースは除いている。

※履修者数10名未満の科目は除いている。

	2023年度後期		2024年度前期		2024年度後期	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
I. 授業への学生の取り組み						
I-1. この授業への出席(参加)状況	3.81	1.24	3.99	1.21	3.88	1.24
I-2. この授業では、熱心に受講し、主体的に取り組んだ。	4.13	0.96	4.16	0.96	4.16	0.94
I-3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたり平均学習時間(授業時間を除く)	1.99	1.20	1.89	1.17	1.98	1.20
I-4. この授業の内容は私にとって	3.44	0.76	3.45	0.77	3.44	0.75
I-5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	2.75	1.18	2.75	1.19	2.82	1.19
II. 授業内容と授業の進め方						
II-①-1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	4.14	0.92	4.13	0.95	4.13	0.93
II-①-2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	4.12	0.93	4.12	0.95	4.12	0.93
II-①-3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	4.17	0.91	4.16	0.93	4.16	0.91
II-①-4. 教員は学びを深める方法(授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など)を教えていた。	4.19	0.89	4.17	0.91	4.18	0.89
II-①-5. 教員は学生の授業参加(質問、個人・共同作業、意見交換、議論、発表など)を促していた。	4.20	0.90	4.19	0.92	4.20	0.89
II-①-6. 教員は学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック(対応・意見・評価など)をしていた。	4.22	0.89	4.22	0.90	4.23	0.87
II-①-7. 教員は各回の授業のテーマや目標、科目全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	4.27	0.82	4.27	0.83	4.27	0.83
II-①-8. テキストや授業資料は適切で分かりやすかった。	4.20	0.88	4.19	0.90	4.20	0.89
II-①-9-1. (講義・演習科目の場合)板書やスライド資料(パワーポイントなど)は適切で分かりやすかった。	4.20	0.88	4.21	0.89	4.21	0.88
II-①-9-2. (実技・実験・実習科目の場合)教員による実演や実習等の説明は分かりやすかった。						
II-①-10. 教員の授業に対する熱意を感じた。	4.31	0.81	4.30	0.83	4.30	0.82
II-①-11. 教員は授業の準備を十分にしていた。	4.35	0.79	4.35	0.80	4.34	0.80
II-①-12. 教員は学生がマナーを守るよう指導していた。	4.20	0.87	4.20	0.89	4.20	0.87
II-①-13. クラス全体が集中して学べるように教員が指導していた。	4.20	0.86	4.20	0.88	4.20	0.86
II-①-14. 教員はよりよい授業となるよう授業方法の改善に取り組んでいた。	4.22	0.85	4.21	0.88	4.22	0.86
(該当者のみ回答) II-①-15. 遠隔授業では教員は授業ツール(Classroom・Meet・Zoomなど)を適切に活用していた。	4.32	0.83	4.29	0.88	4.30	0.85
(該当者のみ回答) II-②-1. 対面授業では適切なICT環境(Wi-Fi、PCなど)が整っていた。	4.31	0.86	4.30	0.89	4.29	0.88

(該当者のみ回答) Ⅱ-②-2. 対面授業では適切な教室設備(空調、プロジェクター、机の配置など)が整っていた。	4.33	0.84	4.33	0.87	4.32	0.84
Ⅲ. 授業を通して得られたこと						
Ⅲ-1. この分野の専門的知識や技能が身についた。	4.26	0.80	4.25	0.82	4.26	0.80
Ⅲ-2. 学習力や思考力が高まった。	4.22	0.82	4.22	0.84	4.23	0.82
Ⅲ-3. 知的好奇心や探究心が高まった。	4.20	0.85	4.19	0.87	4.21	0.84
Ⅲ-4. 考え方や社会的視野が広がった。	4.23	0.83	4.22	0.85	4.23	0.83
Ⅲ-5. コミュニケーションする力(他人の意見を聞き、自分の意見を適切に表現する力)が高まった。	4.06	0.96	4.06	0.98	4.07	0.96
Ⅲ-6. シラバスに明記されている本授業における到達目標(知識、技能、態度等)を達成できた。	4.10	0.85	4.10	0.87	4.13	0.84
Ⅲ-7. これから生きていくうえで役立つと思う。	4.27	0.82	4.28	0.83	4.26	0.81
Ⅲ-8. 全体として、この授業を受けて満足した。	4.26	0.84	4.27	0.86	4.26	0.85

直近2期と比較して、各質問項目の平均値、標準偏差ともに大きな変化はなく、類似した傾向であることがうかがえる。調査項目「Ⅱ. 授業内容と授業の進め方」「Ⅲ. 授業を通して得られたこと」は、2022年後期の時点ですべての項目が4点台となっており、教員が授業内容を充実させていること、その成果が学生にも感じられる形で表れていることがわかる。

2023年度後期で2023年度前期に比しての平均値の上昇が見られたシラバスの活用（「I-5 学生のシラバスの活用」「Ⅲ-6 シラバスに明記される到達目標の達成」）については、さらに上昇している。学生のなかでシラバスの活用が進んでいる様子が見えてくる。

◆平均（実施形態別）

	対面		遠隔		全体	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
I. 授業への学生の取り組み						
I-1. この授業への出席(参加)状況	3.83	1.24	4.10	1.24	3.88	1.24
I-2. この授業では、熱心に受講し、主体的に取り組んだ。	4.20	0.93	3.97	0.96	4.16	0.94
I-3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたり平均学習時間(授業時間を除く)	1.97	1.23	2.01	1.06	1.98	1.20
I-4. この授業の内容は私にとって	3.41	0.75	3.56	0.74	3.44	0.75
I-5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	2.81	1.20	2.85	1.14	2.82	1.19
II. 授業内容と授業の進め方						
II-①-1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	4.18	0.91	3.92	1.01	4.13	0.93
II-①-2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	4.18	0.90	3.86	1.02	4.12	0.93
II-①-3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	4.21	0.89	3.95	0.99	4.16	0.91
II-①-4. 教員は学びを深める方法(授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など)を教えていた。	4.23	0.87	3.97	0.98	4.18	0.89
II-①-5. 教員は学生の授業参加(質問、個人・共同作業、意見交換、議論、発表など)を促していた。	4.29	0.83	3.84	1.03	4.20	0.89
II-①-6. 教員は学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック(対応・意見・評価など)をしていた。	4.29	0.83	3.98	1.02	4.23	0.87
II-①-7. 教員は各回の授業のテーマや目標、科目全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	4.30	0.81	4.13	0.92	4.27	0.83
II-①-8. テキストや授業資料は適切で分かりやすかった。	4.23	0.87	4.04	0.99	4.20	0.89
II-①-9-1. (講義・演習科目の場合)板書やスライド資料(パワーポイントなど)は適切で分かりやすかった。	4.24	0.85	4.03	0.97	4.21	0.88
II-①-9-2. (実技・実験・実習科目の場合)教員による実演や実習等の説明は分かりやすかった。						
II-①-10. 教員の授業に対する熱意を感じた。	4.33	0.80	4.15	0.90	4.30	0.82
II-①-11. 教員は授業の準備を十分にしていた。	4.36	0.77	4.22	0.89	4.34	0.80
II-①-12. 教員は学生がマナーを守るよう指導していた。	4.29	0.81	3.83	0.99	4.20	0.87
II-①-13. クラス全体が集中して学べるように教員が指導していた。	4.28	0.82	3.85	0.97	4.20	0.86
II-①-14. 教員はよりよい授業となるよう授業方法の改善に取り組んでいた。	4.27	0.83	4.02	0.94	4.22	0.86
(該当者のみ回答) II-①-15. 遠隔授業では教員は授業ツール(Classroom・Meet・Zoomなど)を適切に活用していた。			4.32	0.88	4.30	0.85
(該当者のみ回答) II-②-1. 対面授業では適切なICT環境(Wi-Fi、PCなど)が整っていた。	4.34	0.85			4.29	0.88
(該当者のみ回答) II-②-2. 対面授業では適切な教室設備(空調、プロジェクター、机の配置など)が整っていた。	4.37	0.81			4.32	0.84
III. 授業を通して得られたこと						
III-1. この分野の専門的知識や技能が身についた。	4.30	0.77	4.10	0.89	4.26	0.80
III-2. 学習力や思考力が高まった。	4.27	0.79	4.06	0.91	4.23	0.82

Ⅲ-3. 知的好奇心や探究心が高まった。	4.24	0.81	4.03	0.95	4.21	0.84
Ⅲ-4. 考え方や社会的視野が広がった。	4.26	0.80	4.07	0.92	4.23	0.83
Ⅲ-5. コミュニケーションする力(他人の意見を聞き、自分の意見を適切に表現する力)が高まった。	4.16	0.89	3.64	1.13	4.07	0.96
Ⅲ-6. シラバスに明記されている本授業における到達目標(知識、技能、態度等)を達成できた。	4.17	0.82	3.95	0.91	4.13	0.84
Ⅲ-7. これから生きていくうえで役立つと思う。	4.31	0.78	4.06	0.92	4.26	0.81
Ⅲ-8. 全体として、この授業を受けて満足した。	4.30	0.82	4.08	0.94	4.26	0.85

2024年度前期と傾向は変わらない。学生がより熱心に取り組むのは対面授業である（I-2）。また、調査項目「Ⅱ. 授業内容と授業の進め方」「Ⅲ. 授業を通して得られたこと」のいずれについても、対面のほうがよい結果となった。対面のほうが授業の充実はしやすく、学生にとっても成果が感じられやすいと言える。ただし、学生の授業への出席状況は、遠隔のほうが良い傾向にある。

◆条件ごとの「授業運営」尺度・「学修達成」尺度の得点の違い

アンケート項目のうちⅡ-①-1からⅡ-①-15までの平均を「授業運営」尺度とする。これは、教員の授業に対する工夫や熱意などを示す指標である。また、Ⅲ-1からⅢ-8までの平均を「学修達成」尺度とする。これは、学生が専門知識や思考力、コミュニケーション能力などを身につけたかどうかを示す指標である。

学部別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
経営	4.12	0.79	7451	4.10	0.78	7597
芸術	4.32	0.67	6458	4.29	0.68	6700
教育	4.28	0.77	6880	4.30	0.75	6992
国際観光	4.28	0.77	1503	4.22	0.83	1550
データサイエンス	4.08	0.70	859	4.00	0.69	867
看護	4.04	0.76	1772	4.03	0.77	1796
全体	4.22	0.75	24923	4.21	0.75	25502

授業形態別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
講義	4.13	0.77	14510	4.12	4.12	15010
演習	4.33	0.72	10527	4.32	4.32	10611
実技実験実習	4.37	0.75	319	4.47	4.47	320
合計	4.22	0.76	25356	4.21	4.21	25941

授業規模別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
小 (10～19)	4.40	0.67	2854	4.37	0.68	2873
中 (20～39)	4.38	0.69	6612	4.36	0.69	6655
大 (40～79)	4.22	0.76	5949	4.22	0.75	6015
特大 (80～)	4.06	0.78	9941	4.05	0.78	10398
合計	4.22	0.76	25356	4.21	0.75	25941

学年別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
1年生	4.23	0.76	9043	4.20	0.77	9246
2年生	4.19	0.76	8774	4.18	0.75	8968
3年生	4.22	0.74	5788	4.22	0.74	5945
4年生	4.33	0.73	1480	4.30	0.74	1510
5年生以上	4.31	0.72	32	4.31	0.70	33
合計	4.22	0.76	25117	4.20	0.75	25702

性別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
男性	4.17	0.80	8641	4.16	0.79	8819
女性	4.25	0.73	16082	4.23	0.73	16472
その他 /答えたくない	4.06	0.71	284	4.08	0.68	297
合計	4.22	0.76	25007	4.20	0.75	25588

教員区分別

	授業運営			学修達成		
	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
専任	4.21	0.76	16944	4.20	0.76	17183
非常勤	4.23	0.74	8412	4.21	0.75	8758
合計	4.22	0.76	25356	4.21	0.75	25941

学部別では、「芸術」と「教育」と「国際観光」が高い。2024年度前期と比べて各学部の傾向に変化はない。

授業形態では、講義が低く、演習・実技実験が高いという傾向に変化はない。実技実験演習が2024年度前期より低くなっているが、2023年度後期よりは高くなっている（授業運営：4.29→4.37，学修達成：4.41→4.47）。

授業規模は履修者が少ないほど、学年は4年生が、性別は女性が、両指標が高くなる傾向にあるという点は例年通りで変化はない。

教員区分については、専任と非常勤がほぼ同じとなっている。これは、2023年度後期と同様である。2024年度前期と比べると、専任は同水準で非常勤は上がっている。専任は年間を通して一定で、非常勤は前期にやや下がりやすい傾向があると考えられる。

◆相関分析

相関（全体）

	I-1	I-2	I-3	I-4	I-5	授業運営	学修達成
I-1 出席	—						
I-2 熱心さ	0.25	—					
I-3 学習時間（授業外）	0.05	0.17	—				
I-4 授業の難易度	-0.01	-0.03	0.12	—			
I-5 シラバス活用	0.02	0.17	0.22	0.03	—		
授業運営	0.04	0.39	0.08	-0.16	0.17	—	
学修達成	0.06	0.42	0.12	-0.16	0.19	0.85	—

相関（対面）

	I-1	I-2	I-3	I-4	I-5	授業運営	学修達成
I-1 出席	—						
I-2 熱心さ	0.26	—					
I-3 学習時間（授業外）	0.06	0.18	—				
I-4 授業の難易度	-0.01	-0.01	0.12	—			
I-5 シラバス活用	0.02	0.17	0.22	0.03	—		
授業運営	0.04	0.35	0.09	-0.15	0.17	—	
学修達成	0.07	0.38	0.13	-0.15	0.18	0.85	—

相関（遠隔）

	I-1	I-2	I-3	I-4	I-5	授業運営	学修達成
I-1 出席	—						
I-2 熱心さ	0.26	—					
I-3 学習時間（授業外）	0.06	0.18	—				
I-4 授業の難易度	-0.01	-0.01	0.12	—			
I-5 シラバス活用	0.02	0.17	0.22	0.03	—		
授業運営	0.04	0.35	0.09	-0.15	0.17	—	
学修達成	0.07	0.38	0.13	-0.15	0.18	0.85	—

相関係数が0.20以上の箇所に網掛けをした。傾向は例年と同様である。「授業運営」と「学修達成」の相関は非常に高く、「熱心さ」と「授業運営」「学修達成」の相関も高い。よい授業運営と学生の熱心な取り組みの結果、学修達成も得られていると考えられる。「シラバスの活用」と「学習時間」の相関も高い。

授業評価アンケート結果（ピアノ科目）

◆経年比較

※23問中「1」または「5」の解答が22以上のケースは除いている。

	2023年度後期		2024年度前期		2024年度後期	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
I. 授業への学生の取り組み						
I-1. この授業への出席(参加)状況	3.80	1.14	4.13	1.10	4.17	1.04
I-2. この授業では、熱心に受講し、主体的に取り組んだ。	4.40	0.97	4.58	0.86	4.44	0.93
I-3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたり平均学習時間(授業時間を除く)	2.44	1.19	2.32	1.18	2.21	1.16
I-4. この授業の内容は私にとって	3.55	0.70	3.34	0.62	3.38	0.70
I-5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	2.44	1.20	2.41	1.17	2.50	1.23
II. 授業内容と授業の進め方						
II-1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	4.60	0.64	4.63	0.63	4.55	0.70
II-2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	4.58	0.70	4.67	0.59	4.55	0.72
II-3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	4.56	0.65	4.61	0.64	4.52	0.71
II-4. 教員は学びを深める方法(授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など)を教えていた。	4.57	0.64	4.64	0.60	4.54	0.71
II-5. 教員は学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック(対応・意見・評価など)をしていた。	4.61	0.60	4.65	0.63	4.56	0.73
II-6. 教員は各回の授業のテーマや目標、グレード全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	4.58	0.63	4.64	0.62	4.53	0.76
II-7. 教員による実演の説明は分かりやすかった。	4.58	0.69	4.66	0.62	4.60	0.67
II-8. 教員の授業に対する熱意を感じた。	4.60	0.66	4.71	0.55	4.61	0.67
(該当者のみ回答) II-9. 対面授業では適切な教育設備(空調など)が整っていた。	4.48	0.73	4.55	0.79	4.45	0.79
(該当者のみ回答) II-10. 遠隔授業では教員は授業ツール(Classroom・Meet・Zoomなど)を適切に活用していた。	4.49	0.74	4.55	0.74	4.41	0.84
III. 授業を通して得られたこと						
III-1. ピアノ技能が身についた。	4.56	0.62	4.69	0.51	4.58	0.70
III-2. 楽曲の理解力が高まった。	4.51	0.62	4.59	0.61	4.51	0.72
III-3. 音楽に関する知的好奇心や探究心が高まった。	4.48	0.67	4.52	0.68	4.46	0.77
III-4. 音楽に関する考え方や社会的視野が広がった。	4.40	0.76	4.45	0.76	4.42	0.78
III-5. 表現する力が高まった。	4.47	0.68	4.55	0.63	4.51	0.72
III-6. シラバスに明記されている本授業における到達目標(知識、技能、態度等)を達成できた。	4.34	0.76	4.41	0.74	4.36	0.78
III-7. これから生きていくうえで役立つと思う。	4.50	0.73	4.62	0.62	4.58	0.67
III-8. 全体として、この授業を受けて満足した。	4.55	0.70	4.65	0.62	4.57	0.72

I-5「シラバスの活用」の値がやや高くなっている。〈II. 授業の内容と授業の進め方〉については、わずかに低下傾向にある（特にII-1「教員の説明のわかりやすさ」II-6「目標や位置づけを明確にして計画的に授業を進める」がやや下がっている）ものの、全体的に4.5以上のものが多く、依然として高い水準を保っている。〈III. 授業を通して得られたこと〉もすべて4.3以上で、III-8「満足度」も4.57と高い。教員が授業内容を充実させていること、その成果が学生にも感じられる形で表れていることがわかる。

◆相関分析

ピアノ科目については、アンケート項目のうちII-1からII-8までの平均を「授業運営」尺度とする。また、III-1からIII-8までの平均を「学修達成」尺度とする。

相関（全体）

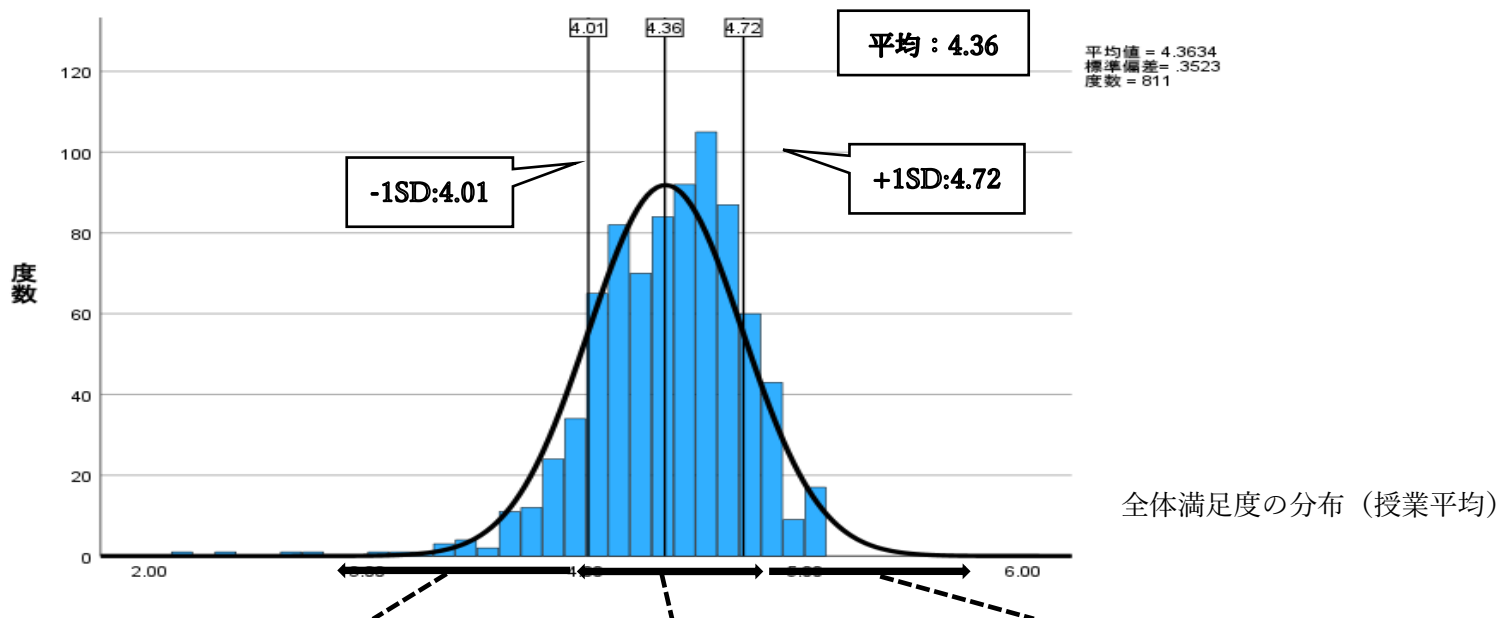
	I-1	I-2	I-3	I-4	I-5	授業運営	学修達成
I-1 出席	—						
I-2 熱心さ	0.28	—					
I-3 学習時間（授業外）	0.12	0.26	—				
I-4 授業の難易度	-0.02	-0.11	-0.06	—			
I-5 シラバス活用	0.05	0.20	0.21	-0.15	—		
授業運営	-0.04	0.25	0.16	-0.27	0.23	—	
学修達成	-0.04	0.30	0.13	-0.38	0.27	0.84	—

相関係数が0.2以上の箇所に網掛けをした。「授業運営」と「学修達成」の相関が非常に高いこと、「熱心さ」と「学修達成」「授業運営」の相関が見られることは、一般科目と同じである。ピアノの場合は、「シラバスの活用」も正の相関が見られる。一方、「授業の難易度」とは負の相関が見られる。つまり、授業が自分にとって難しいと感じているほど、「授業運営」の評価も、「学修達成」の評価も下がりやすい。

また、「熱心さ」がI-4「授業の難易度」以外のすべてについて0.2以上の相関が見られた。2024年度前期に、「熱心さ」と「学習時間」の関連が見られなくなっていたが、それが戻っている。教員が授業運営をよりよい形で行い、学生が熱心に取り組むことで、よい学修達成も得られていることがわかる。

【自由記述の分析】

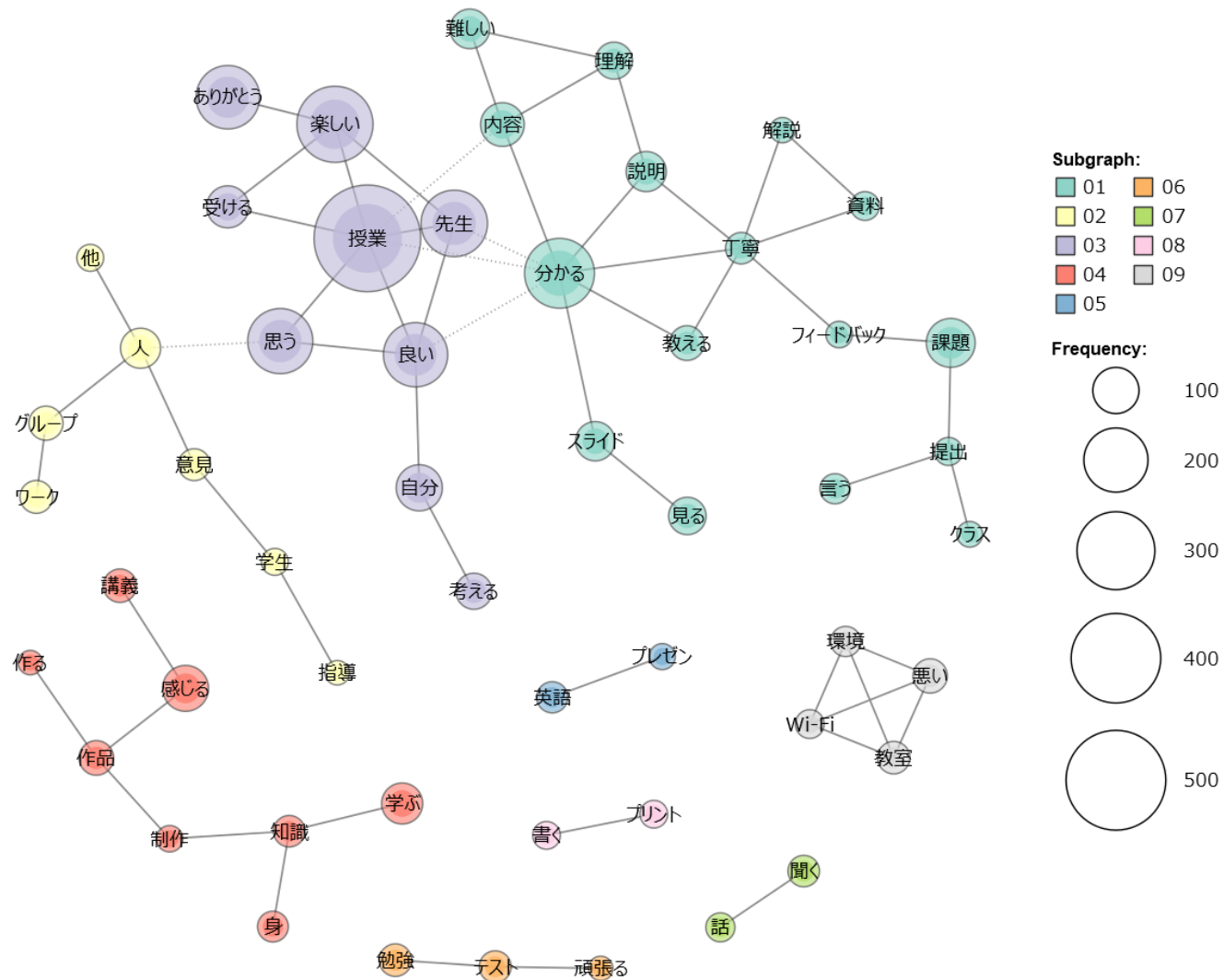
※ピアノ科目は除く



	全体	下位		中位		上位	
満足度	M=4.36	4.01 未満		4.01 以上 4.72 以下		4.72 より上	
授業数(有効)	811	114 (14.1%)		581 (71.6%)		116 (14.3%)	
コメント件数	2,544	447 (17.5%)		1,730 (68.0%)		367 (14.4%)	
		抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
		授業	243	授業	574	授業	153
		課題	111	楽しい	286	楽しい	99
		分かる	99	分かる	239	先生	98
		多い	77	先生	216	ありがとう	77
		思う	74	思う	207	分かる	62
		時間	60	良い	201	良い	51
		先生	55	ありがとう	196	思う	38
		感じる	50	多い	122	学ぶ	33
		内容	48	課題	113	教える	32
		説明	44	自分	100	受ける	31

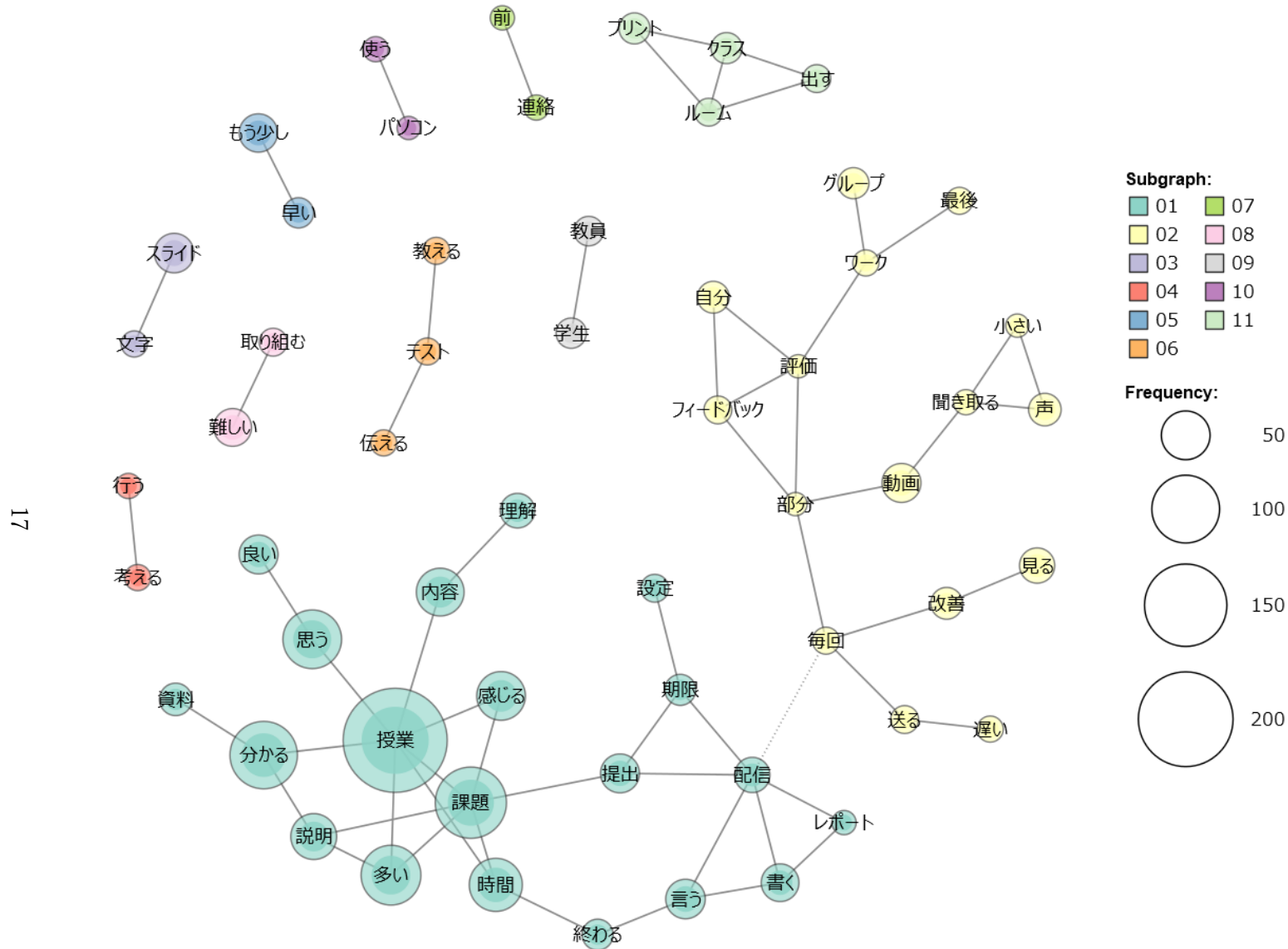
【中位群の共起ネットワーク】

16



- ・ 楽しい授業への感謝を伝える記述が多く見られた。
- ・ 内容やスライド、説明が分かりやすいこと、フィードバックを丁寧にやっていることが肯定的に評価されていた。
- ・ 一方で、スライドが速い、見づらいなどの指摘もあった。「内容」に関連して「難しい」という語も見られる。
- ・ Wi-Fi や教室環境が悪いという指摘も見られた。
- ・ 「感じる」という語は、一部ネガティブな指摘をする際に使われる傾向がある。

【下位群の共起ネットワーク】



- ・「授業」と「分かる」の関連が強いが、具体的な記述を見ると、否定的なものが多くなっている。
- ・「課題」について、多い、時間が足りない、提出期限が早い、はっきりしないなどの指摘があった。ここでもネガティブなことについて「感じる」という表現が多く見られた。

教学改善のための授業評価アンケート

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学

このアンケートは、教学の改善充実を図ることを目的にしています。調査の回答内容が成績に影響することはありません。この科目のこれまでの授業を振り返り、該当する回答選択肢にマーク（数字を塗り潰し）してください。

学籍番号の記入は、提出の有無や提出間違いの確認のためであり、回答者を特定するためではありません。学籍番号の情報は担当教員には提供されません。

【記入上の注意】

- ① 原則としてHB以上の鉛筆等を使用し、該当番号の枠内を濃く完全に塗り潰してください。
- ② 訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。
- ③ 回答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

〈良い例〉 ● 〈悪い例〉 ○ ● ● ● ●

〈学籍番号〉（二重枠線内に学籍番号（数字7桁）を記入し、同じ番号の枠内をマークしてください。）

	0	0	0	0	0	0	← 0
①	1	1	1	1	1	1	← 1
②	2	2	2	2	2	2	← 2
	3	3	3	3	3	3	← 3
	4	4	4	4	4	4	← 4
	5	5	5	5	5	5	← 5
	6	6	6	6	6	6	← 6
	7	7	7	7	7	7	← 7
	8	8	8	8	8	8	← 8
	9	9	9	9	9	9	← 9

授業科目名	
教員名	
曜日・時限	曜 限

大学	① 経営学部 ② 芸術学部 ③ 教育学部 ④ 国際観光学部 ⑤ データサイエンス学部 ⑥ 看護学部
大学院	⑦ 教育学研究科
短大	⑧ 生活デザイン学科 ⑨ 調理・製菓学科 調理コース ⑩ 調理・製菓学科 製菓コース ⑪ 調理・製菓学科 フードコーディネートコース ⑫ 栄養学科 ⑬ 幼児教育学科 ⑭ 観光学科 ⑮ グローバルコミュニケーション学科 ⑯ 経営会計学科
学年	① 1年生 ② 2年生 ③ 3年生 ④ 4年生 ⑤ 5年生以上
性別	① 男性 ② 女性 ③ その他（または答えたくない） 学生区分 ① 一般学生 ② 留学生

I 授業への学生の取り組み

1. この授業への出席（参加）状況	① 4回以上欠席（4回以上不参加） ② 3回欠席（3回不参加） ③ 2回欠席（2回不参加） ④ 1回欠席（1回不参加） ⑤ 全回出席（全回参加）
2. この授業では、熱心に受講し、主体的に取り組んだ。	① そう思わない ② あまりそう思わない ③ どちらともいえない ④ ややそう思う ⑤ そう思う
3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたりの平均学習時間（授業時間を除く）	① 1時間未満 ② 1～2時間未満 ③ 2～3時間未満 ④ 3～4時間未満 ⑤ 4時間以上
4. この授業の内容は私にとって	① 簡単すぎた ② やや簡単だった ③ 適切だった ④ やや難しかった ⑤ 難しすぎた
5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	① 全く活用しなかった ② あまり活用しなかった ③ どちらともいえない ④ 活用した ⑤ とても活用した

●以下の項目について、該当するものを選んでください。

II-① 授業内容と授業の進め方

1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	①	②	③	④	⑤
2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤
3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤
4. 教員は学びを深める方法（授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など）を教えていた。	①	②	③	④	⑤

そう 思わ ない	あ ま り そ う 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う
----------------	---	---	----------------------------	------------------

～裏面も回答してください～

II-① 授業内容と授業の進め方（続き）

	そう 思わ ない	あ ま り そ う 思 わ ない	ど ち ら と も い え な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う
5. 教員は学生の授業参加（質問、個人・共同作業、意見交換、議論、発表など）を促していた。	①	②	③	④	⑤
6. 教員は学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック（対応・意見・評価など）をしていた。	①	②	③	④	⑤
7. 教員は各回の授業のテーマや目標、科目全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤
8. テキストや授業資料は適切で分かりやすかった。	①	②	③	④	⑤
9-1.（講義・演習科目の場合）板書やスライド資料（パワーポイントなど）は適切で分かりやすかった。 9-2.（実技・実験・実習科目の場合）教員による実演や実習等の説明は分かりやすかった。	①	②	③	④	⑤
10. 教員の授業に対する熱意を感じた。	①	②	③	④	⑤
11. 教員は授業の準備を十分にしていた。	①	②	③	④	⑤
12. 教員は学生がマナーを守るよう指導していた。	①	②	③	④	⑤
13. クラス全体が集中して学べるように教員が指導していた。	①	②	③	④	⑤
14. 教員はよりよい授業となるよう授業方法の改善に取り組んでいた。	①	②	③	④	⑤
15.（該当者のみ回答） 遠隔授業では教員は授業ツール（Classroom・Meet・Zoomなど）を適切に活用していた。	①	②	③	④	⑤

II-② 教育環境

1.（該当者のみ回答） 対面授業では適切なICT環境（Wi-Fi、PCなど）が整っていた。	①	②	③	④	⑤
2.（該当者のみ回答） 対面授業では適切な教室環境（空調、プロジェクター、机の配置など）が整っていた。	①	②	③	④	⑤

●以下の項目について、該当するものを選んでください。

III 授業を通して得られたこと

	そ う 思 わ ない	あ ま り そ う 思 わ ない	ど ち ら と も い え な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う
1. この分野の専門的知識や技能が身についた。	①	②	③	④	⑤
2. 学習力や思考力が高まった。	①	②	③	④	⑤
3. 知的好奇心や探究心が高まった。	①	②	③	④	⑤
4. 考え方や社会的視野が広がった。	①	②	③	④	⑤
5. コミュニケーションする力（他人の意見を聞き、自分の意見を適切に表現する力）が高まった。	①	②	③	④	⑤
6. シラバスに明記されている本授業における到達目標（知識、技能、態度等）を達成できた。	①	②	③	④	⑤
7. これから生きていくうえで役立つと思う。	①	②	③	④	⑤
8. 全体として、この授業を受けて満足した。	①	②	③	④	⑤

IV 自由記述（この授業の良かった点、悪かった点、意見、改善点等を自由にお書きください。なお、書かれた内容は授業改善に活用します。）

教学改善のための授業評価アンケート (ピアノ科目)

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学

このアンケートは、教学の改善充実を図ることを目的にしています。調査の回答内容が成績に影響することはありません。この科目のこれまでの授業を振り返り、該当する回答選択肢にマーク（数字を塗り潰し）してください。

学籍番号の記入は、提出の有無や提出間違いの確認のためであり、回答者を特定するためではありません。学籍番号の情報は担当教員には提供されません。

<学籍番号> (二重枠線内に学籍番号(数字7桁)を記入し、同じ番号の枠内をマークしてください。)

[記入上の注意]

- ① 原則としてHB以上の鉛筆等を使用し、該当番号の枠内を濃く完全に塗り潰してください。
- ② 訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。
- ③ 回答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

<良い例> ● <悪い例> ○ ● ● ● ●

①	①	①	①	①	①	①	← 0
②	②	②	②	②	②	②	← 1
	③	③	③	③	③	③	← 2
	④	④	④	④	④	④	← 3
	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	← 4
	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	← 5
	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	← 6
	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	← 7
	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	← 8
							← 9

授業科目名	
教員名	
曜日・時限	曜 限

大学	① 経営学部	② 芸術学部	③ 教育学部	④ 国際観光学部	⑤ データサイエンス学部	⑥ 看護学部
大学院	⑦ 教育学研究科					
短大	⑧ 生活デザイン学科	⑨ 調理・製菓学科 調理コース	⑩ 調理・製菓学科 製菓コース	⑪ 調理・製菓学科 フードコーディネートコース	⑫ 栄養学科	⑬ 幼児教育学科
	⑭ 観光学科	⑮ グローバルコミュニケーション学科	⑯ 経営会計学科			

I 授業への学生の取り組み

1. この授業への出席(参加)状況	① 4回以上欠席 (4回以上不参加)	② 3回欠席 (3回不参加)	③ 2回欠席 (2回不参加)
	④ 1回欠席 (1回不参加)	⑤ 全回出席 (全回参加)	
2. この授業では、熱心に受講し、主体的に取り組んだ。	① そう思わない	② あまりそう思わない	③ どちらともいえない
	④ ややそう思う	⑤ そう思う	
3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたりの平均学習時間(授業時間を除く)	① 1時間未満	② 1~2時間未満	③ 2~3時間未満
	④ 3~4時間未満	⑤ 4時間以上	
4. この授業の内容は私にとって	① 簡単すぎた	② やや簡単だった	③ 適切だった
	④ やや難しかった	⑤ 難しすぎた	
5. 私はこの授業のシラバスを活用した。	① 全く活用しなかった	② あまり活用しなかった	③ どちらともいえない
	④ 活用した	⑤ とても活用した	

●以下の項目について、該当するものを選んでください。

II 授業内容と授業の進め方

	そう 思わ ない	あ ま り 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う
1. 全体として、教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	①	②	③	④	⑤
2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤
3. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤
4. 教員は学びを深める方法(授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など)を教えていた。	①	②	③	④	⑤
5. 教員は学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック(対応・意見・評価など)をしていた。	①	②	③	④	⑤
6. 教員は各回の授業のテーマや目標、グレード全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	①	②	③	④	⑤

~裏面も回答してください~

